

各関係大学長  
各関係大学学部長 殿  
各関係機関の長

国立感染症研究所長  
(公印省略)

次世代生物学的製剤研究センター長の公募について (依頼)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度当所では次世代生物学的製剤研究センター長の選考を行うことになりました。

つきましては、貴学(学部、機関)、貴所または関係機関において適任者がございましたら、下記によりご推薦賜りますようお願い申し上げます。

次世代生物学的製剤研究センターにおいては、感染症その他の特定疾病に関し、次に掲げる業務をつかさどっています。

・ 予防、治療及び診断に関する生物学的製剤並びに抗菌性物質及びその製剤の生物学的検査及び検定(異常毒性否定試験、発熱試験、及び化学試験に係る部分に限る。)並びにこれらの医薬品の生物学的検査及び検定に必要な標準品の製造並びにこれらに必要な科学的調査及び研究を行うこと。

・ 予防、治療及び診断に関する生物学的製剤(血液製剤に限る。)及び次世代生物学的製剤の生物学的検査、検定及び試験的製造並びにこれらの医薬品の生物学的検査及び検定に必要な標準品の製造及び試験法の開発並びにこれらに必要な科学的調査及び研究を行うこと(他部の所掌に属するものを除く。)

特に当センターでは、血液安全確保に関わる種々の問題について各種委員会等から科学的立場からの判断を求められます。また、新規モダリティのワクチンの品質確保のための研究を推進していくことが望まれています。

研究分野としては下項の候補者資格要件に示してあるとおりです。

記

1. 候補者資格条件

- ① 血液及び血液製剤を介する感染症対策、輸血及び血液製剤の安全性確保について、意欲と経験、高い見識を有すること。
- ② 感染症学、免疫学等に関する豊富な知識と高い研究実績を有すること。
- ③ 血液製剤をはじめとする生物学的製剤(新規モダリティの製剤を含む)の品質管理を国際的に協調して行う能力を有すること。
- ④ センターをまとめる指導力を有すること。
- ⑤ 学位(博士号)を有すること。

2. 提出書類

- ① 履歴書(A4版横書き、氏名、性別、生年月日、本籍(都道府県名)、現住所、学歴(高等学校卒業以降)、学位、職歴、1カ月以上の海外歴とその内容、所属学会名、学会等での役職名、賞罰、健康状況等。)
- ② 業績目録(A4版横書き、別紙様式をご参考下さい。)※corresponding author(責任

著者) 論文には、必ず各題名の書き出しに(責)と記入してください。

- ③主要論文の別刷(写し可) 10編以内
- ④主要研究概要(A4版横書き1枚程度)
- ⑤応募職への抱負(A4版横書き1枚程度)

3. 応募締切日 令和4年10月24日(月)必着

4. 選考採用試験

- ①書類選考 令和4年10月下旬(予定)
- ②面接 令和4年11月下旬(予定)  
(面接に際し、プレゼンテーションをお願いする場合があります。)

5. 採用予定日 令和5年4月1日(予定)

6. 書類提出先

〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1

国立感染症研究所長宛て応募書類の封筒には「次世代生物学的製剤研究センター長  
応募」と朱書の上、所長宛て親展とし、書留で郵送して下さい。

なお、提出された書類は返送致しません。

7. 問い合わせ先 国立感染症研究所 総務部人事課人事第一係 西川・刑部  
電話：03-5285-1111(代表)内線2024  
E-mail：[jinji@nih.go.jp](mailto:jinja@nih.go.jp)

# 業績目録

氏名

## 1. 著書

## 2. 学術論文(学会誌発表等)

### (1) 欧文

### (2) 邦文

## 3. 学会発表(講演・発表等)

## 4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

### (記入上の注意事項(共通))

1. 上記項目ごとに、著者名等、著書名等、発行所名(発表雑誌名)の順で記載し、それぞれを改行すること。
2. 年代の新しいものから順に記載すること。
3. 発行所名、発表雑誌名の次に巻号、ページ数及び発行等の西暦を記入すること。  
(例: Journal of Virology, 78:1298-1315, 2002)
4. 欧文の発表等は、原文のまま記載し、下段に( )書で和訳を記載すること。
5. 各題名の書き出しに、発表形態の種別を記載すること。(単独は(単)、筆頭は(筆)、その他は(他))  
※コレスポンディングオーサー(責任著者)の論文には、必ず各題名の書き出しに(責)と記入すること。
6. 著者名等は、本人以外も省略せず全て記載し、さらに本人の名前にアンダーラインを引くこと。
7. 長期の無発表期間がある場合は、その理由書を添付すること。

(参考例)

1. 著書

- ① 労働太郎、厚生太郎  
(他炎症の組織病態  
〇〇社, PP.67-87, 1989

2. 学術論文

(1) 欧文

- ① Taro kousei、Jiro Kousei、Saburou Kousei、Tarou Roudou、Jiro Roudou、Saburou Roudou  
(筆) An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in USA, 2002  
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイク-2002年アメリカ)  
Epidemiology and Infection, 15:286-289, 2002

(2) 邦文

- ① 厚生太郎、厚生二郎、厚生三郎、労働太郎、労働二郎、労働三郎  
(筆) An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in Oosaka, JAPAN, 2004  
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイク-2004大阪)  
Epidemiology and Infection, 16:311-335 2004

3. 学会発表

- ① 厚生太郎  
(単) ラット皮下腫瘍の消長と〇〇〇の相互関係について  
第25回日本病理学会総会, 東京, 1989

4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

- ① 厚生労働科学研究費補助金、(課題名)〇〇〇〇〇〇  
期間: 平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年
- ② 科学研究費補助金、(課題名)□□□□□  
期間: 平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年